

■ 2020年度 入試問題分析シート ■

広島大学

前期日程

科目

数学(理系)

総括

試験時間	150分	難易度 (昨年比)	難化	昨年並	易化
		分量 (昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

今年も例年通りの出題であり、どの問題も3～4個の小問に分かれて出題された。試験時間は150分あり、計算量が多いので、長時間計算し続ける「体力」も要求される。今年は極端な難問がなかった。

〈特記事項・トピックス〉

どの問題も、最後まで完答するのは容易ではない。「～を示せ。」という形の証明問題は1題だけであった。昨年度に比べると易しくなったが、これは昨年が難化していただけであり、例年通りの難易度に戻ったと言える。出題分野は例年通りである。

〈合格への学習対策〉

まずは教科書レベルをしっかりと学習し、標準レベルの入試問題を中心に演習を積み重ねるとよい。特別な発想や知識は必要としないが、問題文を正しく読み取り、正しく(たくさんの)計算をして答えにたどり着くことが要求されているので、自分の手を動かして計算し、紙面に解答を書いていくことにより、計算力、記述力、論証力を身につけていくことが大切である。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
[1]	記述	I・II	三角比・三角関数	余弦定理を用いて辺の長さを求め、三角形と長方形の面積の和の最大値を求める問題。三角関数の合成を正しくできるかがポイント。	標準
[2]	記述	III	複素数平面	z の1次分数関数で定められる点 w の描く図形を求める問題。典型的な問題で、類題を解いたことのある受験生も多いだろうと思われる。	標準
[3]	記述	III	微分法・積分法	曲線にちょうど二つの接線が引けるような定点の座標を求める問題。文字定数 a を分離してもできる。	標準
[4]	記述	III	積分法	$ \sin nx $ を含む定積分の問題。(4)以外は積分区間を π/n ごとに分割することがポイント。	やや難
[5]	記述	A	確率	さいころの目と硬貨の表裏によってベクトルの成分を定め、各ベクトルが条件を満たす確率を求める問題。ベクトルの計算をすることはない。	やや難

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階【難・やや難・標準・やや易・易】で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。